

レジリエンス研究、日本語学術図書、論文一覧

2012年10月末現在

I 図書<訳書を含む>

スチュアート・T. ハウザー , ジョセフ・P. アレン、イヴ ゴールデン (Stuart T. Hauser, Joseph P. Allen, Eve Golden)、仁平説子・仁平義明 (訳) (2011年) 『ナラティヴから読み解くレジリエンスー危機的状況から回復した「67分の9」の少年少女の物語』北大路書房。(原書タイトル: *Out of the Woods: Tales of Resilient Teens: Adolescent Lives*, 4)

マーク・W. フレイザー (Fraser, Mark W.)、門永 朋子・岩間 伸之・山縣 文治 (訳) (2009年) 『子どものリスクとレジリエンスー子どもの力を活かす援助』ミネルヴァ書房。(原書タイトル: *Risk and Resilience in Childhood: An Ecological Perspective*.)

深谷 昌志 監修/深谷 和子・上島 博・子どもの行動学研究会・レジリエンス研究会 著 (2009年) 『子どもの「こころの力」を育てるーレジリエンス 元気!しなやかへこたれない』明治図書出版

加藤 敏・八木 剛平 (編) (2009年) 『レジリアンスー現代精神医学の新しいパラダイム』金原出版

小花和 Wright 尚子(2004年) 『幼児期のレジリエンス』ナカニシヤ出版

ウオーリン,スティーブン・ウオーリン、シビル (Wolin, Steven, Wolin,Sybil)、奥野光・小森康永(訳) (2002年) 『サバイバーと心の回復力』金剛出版。 <原書タイトル: *The Resilient Self;How Survivors of Troubled Families Rise Above Adversity.*>

II 論文 <学会発表抄録は除いています>

[ア行]

大塚 公一郎(2011年)「文化の諸相とレジリアンス」『こころと文化』10 (1)

石川 元 (2011年)「家族・個人のレジリアンス (高い靱性) とナチスの健康医学ーハンブルガーとアスペルガーによる教訓ー」『こころと文化』10 (1)

奥山 眞紀子(2010年)「マルトリートメント (子ども虐待) と子どものレジリエンス」
『学術の動向』2010年4月号

石井 京子(2009年)「レジリエンスの定義と研究動向」『看護学研究』42 (1)

井隼 経子・中村 知靖 (2008年)「資源の認知と活用を考慮した resilience の4側面を測定する4つの尺度」『パーソナリティ研究』17 (1)

- 石原 由紀子・中丸 澄子 (2007年) 「レジリエンスについて：その概念、研究の歴史と展望」
『広島文教女子大学紀要』 4 2
- 長田 春香・岩本 文月・大秦 加奈子<他 5名>(2006年) 「中学生の日常ストレスにおけるレジリエンス
の意義」『小児保健研究』 6 5 (2)
- 小田 裕子 (2006年) 「レジリエンスに着目した子どもへの支援」『女性ライフサイクル研究』 1 6
- 石毛 みどり・無藤 隆(2006年) 「中学生のレジリエンスとパーソナリティーの関連」
『パーソナリティー研究』 1 4 (3)
- 石毛 みどり・無藤 隆(2005年) 「中学生における精神的健康とレジリエンスおよびソーシャル・
サポートの関連 ―受験期の学業場面に着目して―」『教育心理学研究』 5 3 (3)
- 小原 敏郎・武藤 安子(2005年) 「保育の質とレジリエンス概念との関連」『日本家政学会誌』 5 6 (9)
- 長内 綾・古川 真人 (2004年) 「レジリエンスと日常的ネガティブライフイベントとの関連」『昭和女子
大学生生活心理研究所紀要』 7
- 石毛 みどり (2003年) 「学生におけるレジリエンスと無力感の関係」『お茶の水女子大学人間文化論叢』
6号
- 入江 安子(2003年) 「ファミリーレジリエンスの概念分析」『四天王寺国際仏教大学紀要』、人文社会学部
第35号、短期大学部第43号
- 小花和 Wright 尚子(2002年) 「幼児期の心理的ストレスとレジリエンス」『日本生理人類学会誌』 7 (1)
- 小花和 Wright 尚子(1999年) 「幼児のストレス反応とレジリエンス」『四条畷学園女子短期大学
研究論集』 3 3

[カ行]

- 小塩 真司 (2012年) 「レジリエンスの理論と測定」、近藤 卓 (編) 『PTG 心的外傷後成長―トラウマを
超えて―』 金子書房 pp.183-191.
- 小塩 真司 (2012年) 「「折れない心」を育む教育と医学」『教育と医学』 No.709、慶応大学出版会
- 小塩 真司 (2012年) 「質問紙によるレジリエンスの測定―妥当性の観点から―」『臨床精神医学』 41号

門永 朋子(2011 年)「レジリエンス研究の変遷にみるその本質とこれからの課題—子ども家庭福祉実践を中心に—」『人間健康学研究』 3 号、関西大学

小塩 真司(2011 年) 「レジリエンス研究からみる「折れない心」」『児童心理』 No.925、金子書房

門永 朋子(2010 年)「子ども家庭福祉実践におけるリスクとレジリエンスの視座の可能性」
『子ども家庭福祉学』 10 号

小塩 真司 (2009 年)「回復力, 弾力のあるところ—レジリエンスの心理学」『児童心理』 63 (5)

加藤 敏 (2008 年)「脆弱性モデルからレジリアンスモデルへ」『精神神経学雑誌』 110 (9)

紺野 祐・丹藤 進(2006 年)「教師の資質能力にかんする調査研究—「教師レジリエンス」の視点から—」
『秋田県立大学総合科学研究彙報』 7

金井 幸光・内田 一成 (2005 年)「思春期におけるレジリエンス構成要因の因果関係についての臨床的
研究」『上越教育大学心理教育相談研究』 4

河上智香・西村明子・新谷一輝<他 7 名> (2005 年)「レジリエンス概念と今後の研究動向」
『大阪大学看護学雑誌』 11 (1)

小塩 真司・中谷 素之・金子 一史・長峰 伸治 (2002 年)「ネガティブな出来事からの立ち直りを導く心
理特性—精神的回復力尺度の作成—」『カウンセリング研究』 35 (1)

[サ行]

下地 明友(2011 年)「レジリアンス・病・文化—レジリアンスの医療人類学」『こころと文化』 10 (1)

庄司 順一 (2009 年)「レジリエンスについて」『人間福祉学研究』 2 (1)、関西学院大学

齋藤 耕二 (2007 年)「心の「強さ」(レジリエンス)とは何か」『児童心理』 61 (2)

下平 さや子 (2006 年)「被虐待児へのエンパワーメント・アプローチ: 子どものレジリアンスの視点から」
『社会福祉学』 47 (1)

下地 久美子 (2006 年)「非行歴を持つ少女のレジリエンスに学ぶ」『女性ライフサイクル研究』 16

鈴木有美 (2006 年)「大学生のレジリエンスと向社会的行動との関連—主観的ウェルビーイングを精神的健
康の指標として—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要、心理発達科学』 50 (4)

庄司 順一 (2005 年)「レジリエンス」『保育界』 2005 年 7 月号

[夕行]

高辻 千恵 (2010 年) 「子どものしなやかさ (レジリエンス) を育む」『教育と医学』 58 (1)

慶應義塾大学出版会

田 亮介・田辺 英・渡邊 衡一郎 (2008 年) 「精神医学におけるレジリアンス概念の歴史」

『精神神経学雑誌』 110 (9)

田 亮介・八木 剛平・田辺 英・渡邊 衡一郎 (2008 年) 「精神疾患におけるレジリエンス研究—PTSD からの展開」『臨床精神医学』 37 (4)

辻野 尚久・龍 庸之助・佐久間 啓・水野 雅文(2008 年) 「統合失調症—再発脆弱性とレジリエンスに基づく再発予防の試み—」『臨床精神医学』 37 (4)

鳥居 勇 (2007 年) 「対象関係から見た中学生不登校とそのレジリエンスに関する研究—一般群と不登校傾向群・不登校群との比較—」中京大学心理学部紀要 7 (1)

得津 慎子・日下菜穂子 (2006 年) 「家族レジリエンス尺度(FRI)作成による家族レジリエンス概念の臨床導入のための検討」『家族心理研究』 20 (2)

得津 慎子 (2003 年) 「家族レジリエンス尺度作成に向けて」『関西福祉科学大学紀要』 7

高辻 千恵 (2002 年) 「幼児の園生活におけるレジリエンス: 尺度の作成と対人葛藤場面への反応による妥当性の研究」『教育心理学研究』 50 (4)

谷村 雅子・松井 一郎 (1999 年) 「子ども虐待のリスク要因」『保健の科学』 41 (8)

[ナ行]

中野 良哉(2007 年) 「臨床実習における状態—特定不安とレジリエンスの関連」『高知リハビリテーション学院紀要』 9

仁尾 かおり・藤原 千恵子(2006 年) 「先天性疾患をもつ思春期にある人のレジリエンスの特徴」『日本小児看護学会誌』 15 (2)

[ハ行]

平野真理(2011 年) 「中高生における二次元レジリエンス要因尺度(BRS)の妥当性—双生児法を用いて」『パーソナリティ研究』 No.20

平野真理(2010 年) 「レジリエンスの資質的要因・獲得的要因の分類の試み—二次元レジリエンス要因尺度 (BRS) の作成—」『パーソナリティ研究』 No.19

蓮井 智恵子・永田 敏明・北村 俊則 (2008 年)「レジリエンスと罪悪感」『心理臨床学研究』 25 (6)

[マ行]

三脇 康生・中野 知代 (2011 年)「戦争トラウマの語りとレジリアンス」『こころと文化』 10 (1)

三宅広美 (2010)「レジリエンスに着目した大学生のパーソナリティー理解—文書完成法と半構造化面による検討」創価大学文系大学院紀要 32

森敏昭・清水益治・Hiew,C.C.<他 2 名> (2002 年)「大学生と自己教育能力とレジリエンスの関係」『広島大学学校教育実践学研究』 8

[ヤ行]

八木 剛平・田 亮介・渡邊 衡一郎 (2007 年)「精神疾患の回復論、生体防御論、そして“Resilience” —統合失調症と気分障害を中心に—」『脳と精神の医学』 8